

# 第5回日中韓大学院生フォーラム開催に際して

櫛田 康晴（2011年第4回日中大学院生フォーラム学生実行委員長）

前回北京で開催された第4回フォーラムでの最大の収穫は、人とのつながりの中で自分の役目を果たすという経験を得られたことでした。

2011年9月、中国地質大学で5日間の日程で開催された第4回日中大学院生フォーラムは、北京近郊の6大学と1研究所、日本から筑波大学を含む4大学が参加した大規模な国際交流イベントでした。6月初めに、筑波大学での最初の事前ミーティングがあり、活動がスタートしました。現地でのプログラムは開催側の中国地質大学が運営するため、私たち筑波大学の学生の課題は、主に英語による研究プレゼンテーションのブラッシュアップでした。日本側の学生リーダーを任された私が最初に考えたことは、全員のプレゼンテーションをもっとも効果的に聴衆に伝わるように仕上げたいということでした。



プレゼンテーションの練習会には、白岩先生、杉浦先生、張先生、古久保先生、辻村先生がお忙しい中、足を運んでくださり、アドバイスをくださいました。

実際、私を含めてほぼすべての学生のプレゼンテーションに改善すべき点が多くありました。私たちには「英語」と、「異なる研究分野」という2つの大きな壁があり、それが困難さを生んでいたのです。

フォーラムでは、聴衆のほとんどが、研究分野の異なる学生や教員となります。プレゼンテーションを分かりやすくするためには、自分の研究分野の背景をきちんと理解してもらわなければなりません。そのため、特にイントロダクションの充実に重点を置き、改善を目指しました。

私自身もできる限り他の人のプレゼンテーションについて気づいた点を指摘する努力をしましたが、とくに馬場さんや安部さんは大変積極的に発言をしてくださり、多くの良い影響を与えてくださいました。また、フォーラム全体を通して、金さんは大変な活躍をしました。彼女は自身も博士後期課程の学生で、自分のプレゼンテーションの準備をしながら、事

事務局として教員と学生をつなぐ橋となりました。彼女の献身的な運営に対する姿勢は、学生を団結させることに大きく貢献をしていたと思います。

9月中旬の開催直前の練習会では、多くの改善が見られました。万全を期すため、その後さらにラクワール先生が、発表者全員のスライドのデザイン、ストーリーの作り方、誤字のチェックまで大変詳細に校正をしてくださいました。2日間にわたって、忙しいご自身の予定をすべてキャンセルして時間を割いてくださいました。こうして多くの方々のお力添えを得て、私たちのプレゼンテーションが完成し、出発の準備が整いました。

フォーラムで発表した多くの学生の方が充実感を得られていたようで、それが私にとって大変幸せなことでした。

次回、筑波で開催される第5回フォーラムの準備がスタートしました。

今回は新たに韓国からの学生も参加することになりました。学生リーダーの白戸さん、事務局の金さん、赤迫さんを含め皆さんの活躍を応援したいと思います。

参加者の皆さんが多くの貴重な経験を得られることを心から願っています。

全国博士生论坛暨第四届中日研究生论坛  
Doctoral Forum of China and the 4th China-Japan Graduate Student Forum

Beijing, China, Sept. 24-27, 2011

